

木更津駐屯地に配備されている航空機の運用に関する懸念事項等について

(1)木更津海岸潮干狩り場及び江川海岸潮干狩り場は、木更津駐屯地に近接しており、従事している組合員や来場されたお客さんから、騒音による苦情の声が寄せられている。潮干狩り場の開場時は、改めて、最大限配慮していただきたい。

(回答)

木更津駐屯地所在の飛行部隊については、周辺潮干狩り場の運営状況を飛行前に把握して可能な限りその上空飛行を回避しています。場周経路の飛行にあたっては、離着陸時における飛行高度を努めて高く保持する他、同一の場周経路を連続して飛行しないように努めるなど騒音の負担を可能な限り軽減できるように最大限配慮した飛行をしています。

(2)金田みたて海岸潮干狩り場は、固定翼機の西側場周経路下に所在することから、開場しているときにオスプレイが飛行すると、場内放送が聞こえないなど、来場されたお客さんから、騒音による苦情の声が寄せられている。潮干狩り場の開場時は、改めて、最大限配慮していただきたい。

(回答)

繰り返しとなりますが、V-22に限らず、木更津駐屯地所在の飛行部隊については、周辺潮干狩り場の運営状況を運航関係者に周知徹底して可能な限りその上空飛行を回避するよう努めております。

金田みたて海岸潮干狩り場については、場周飛行経路下であるため、その使用頻度を低下させるように飛行場の西側へダイレクトに離陸又は着陸する経路も選定して飛行しておりますが、天候の状況により潮干狩り場近傍を飛行しなければならない場合がある事についてはご理解願います。

(3)夜間の飛行訓練の必要性については理解していますが、西よりの風のときの騒音による影響が大きいため、周辺住民に配慮した運用をしていただきたい。

(回答)

運航関係者については、飛行前に風向・風速を確認して可能な限り騒音に配慮した飛行をするようにしています。具体的には、同一経路を連続で飛行しないようにするとともに、洋上を経由して一度東京湾を南下して木更津飛行場への着陸の間隔を空けるようにしています。また、騒音苦情が寄せられた際には、速やかに部隊から操縦士に無線連絡して努めて飛行経路・空域を変えるように指示しています。引き続き、騒音低減に向けた対策について継続的に取り組んでまいります。

(4) オスプレイが金田小学校の上空を飛行しており、体育の授業など屋外の授業等において、会話ができないなど支障が生じていると、同小学校の教諭から市に苦情が寄せられている。同小学校は、場周経路下ではないことから、上空は飛行しないでいただきたい。

(回答)

V-22が木更津に着陸する際は西側場周経路を使用しておりますが、西側場周経路の北側には学校や民家が所在していることから、騒音負担軽減のため昨年より洋上から飛行場へ進入する経路を設定しております。一方、風向・風速によっては航空機の運航上不利(航空機は揚力を得るため基本的に風に正対して飛行するが、その態勢を確保し得ない状態のこと)となることから、安全上、常に適用できるわけではないことをご理解願います。今後も可能な限り回転翼機の経路も使用しつつ、飛行経路の分散に留意し、騒音の軽減に努めてまいります。

(5) 本年6月に陸上自衛隊のオスプレイが17機全機配備されたが、これまでと違った訓練が行われるのか。また、今後の訓練において、騒音の負担が増すことが想定されるのか。

(回答)

訓練の内容に変化はありません。また、騒音に関しては、同一の時間帯に場周経路を飛行できる航空機数は決められており、配備機数増加によって場周経路を使用した訓練の量に大きな変化はないこと、操縦士の練度向上により飛行場外での訓練が増加することなどから、配備機数の増加によって大きな変化はないと考えています。

(6) 木更津駐屯地周辺地域の住民の負担軽減に向けた対応として、例えば、苦情を寄せた方のところに隊員が出向いたり、定期的に地域を巡回して、地域の方々の声を聴いていただき、対応していただくことにより、木更津駐屯地と地域住民との距離も近くなると考えるが、このような対応をしていただけるか。

(回答)

騒音負担軽減に対するご助言ありがとうございます。他方で、苦情を寄せた方に直接隊員が出向いたり地域を巡回して声を聞いて対応することは、全国的な公平性の観点から困難と考えております。

なお、10月5日土曜日に予定している木更津駐屯地航空祭を始め、近隣区民広報等、様々な広報活動を行っておりますので、それらを通じて御理解をいただければ幸いです。また本協議会も皆様の事を聞く大切な場とも認識しております。

(7)昨年11月の米軍オスプレイの墜落事故を受けて飛行を見合わせていた陸上自衛隊のオスプレイが本年3月21日から飛行を再開させました。改めて、運用者の立場からオスプレイの安全性について、飛行再開後の飛行実績を踏まえ、ご説明いただきたい。

(回答)

飛行再開にあたり、輸送航空隊長をはじめとする関係隊員自らが事故原因を確認し、厳しい目で安全対策や施策を確立し問題がないことを確認して飛行を再開しました。また飛行停止の間は、シミュレータを活用して操縦士の飛行練度の維持・向上に努めました。飛行再開後は、ホバリングから再開し、場周経路等近傍の空域において操縦士の練度回復を優先しつつ、航空機の状態を慎重に把握しながら、陸上自衛隊の令和6年度富士総合火力演習への参加や九州地区への人員輸送など、安全な飛行実績を積み重ねています。また指揮官等による安全指導、操縦士・整備員の継続的な安全対策の確実な実施により、安全に航空機を運航しております。併せて、V22は最新の航空機であり、高感度のセンサーが多数あり、不具合が生起した際には速やかに検知が可能です。

(8)畔戸区は、住宅防音工事の対象区域と対象外区域が混在しており、また、オスプレイの暫定配備に伴い対象外区域における騒音による影響が大きくなっていることから、騒音の状況に即した区域の指定をしていただきたい。

(回答)

木更津飛行場周辺においては、木更津市による航空機騒音調査が行われているところ、この騒音測定の結果を踏まえると、区域指定のための基準値を下回っている状況であり、現時点で第一種区域等を拡大する状況ではございません。

いずれにしても、木更津飛行場周辺の航空機騒音については、大変重要な問題であると認識しており、同飛行場の騒音状況等を踏まえて、適切に対応してまいりたいと考えています。

(9)木更津駐屯地内において、現在、米海兵隊オスプレイ2機の整備を行っており、また、同駐屯地内の北西部において、日米オスプレイの整備用の新たな格納庫を2棟建設しているが、工事の進捗状況についてご説明いただきたい。

(回答)

木更津駐屯地内で建設している整備用の格納庫2棟のうち、米軍用の格納庫は、令和4年8月に着手し令和6年6月に完成しました。

自衛隊用の格納庫については、令和6年4月に着手し、現在は建物の基礎杭工事を行っているところであり、令和7年度中の完成を目指して工事を進めています。